

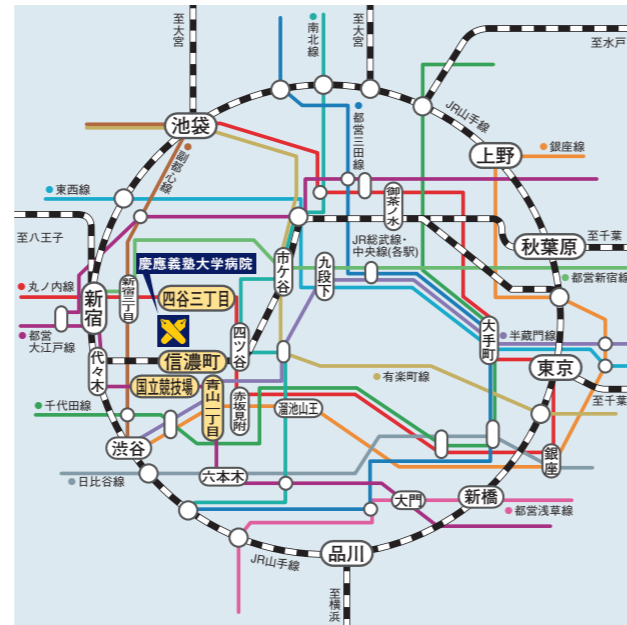


交通アクセス

周辺地図



路線図



■公共交通機関で来院される方

【JR・地下鉄】

- 中央・総武線「信濃町」駅下車
徒歩約1分
- 都営大江戸線「国立競技場」駅下車（A1番出口）
徒歩約5分
- 丸ノ内線「四谷三丁目」駅下車（1番出口）
徒歩約15分
- 半蔵門線・銀座線「青山一丁目」駅下車（0番出口）
徒歩約15分

【バス】

- 新宿駅西口－品川駅高輪口（品97）「信濃町駅前（慶應病院前）」下車
- 早大正門－渋谷駅東口（早81）「四谷第六小学校入口」下車

■お車で来院される方

- 駐車スペース（有料）は台数に限りがあり、駐車までかなりの時間を要することがあります。診察・検査等の予約時間にあわせ、なるべく電車・地下鉄・バスなどをご利用ください。

※雨天時や休診日前後は特に混雑いたしますので、ご注意ください。

お問い合わせ

■予約センター（初診のご予約／予約の確認・変更／検査予約の変更）

- 初診のご予約
03-3353-1257（午前9時00分～午後4時00分）
※ご予約には紹介状が必要です。
※紹介状をお持ちでない場合でも、受診いただける診療科がございます。この場合、診療費とは別に選定療養費（5,000円（税別））をご負担いただきます。予めご了承ください。詳細は予約センターでご確認ください。
- 予約の確認・変更（歯科・口腔外科／検査を除く）
03-3353-1205（午前8時40分～午後4時00分）
- 歯科・口腔外科の予約変更
03-3353-1211
歯科・口腔外科受付（午後1時30分～午後4時00分）
- 検査予約の変更（CT、MRI、超音波、心電図等）
03-3353-1205（午前8時40分～午後4時00分）
03-5363-3654（午後4時00分～午後5時00分）

■入退院センター（入院・退院について）

- 03-3353-1208**（午前8時40分～午後5時00分）
- 入院会計係（入院費のお支払について）
03-5363-3861（午前10時30分～午後4時00分）
- 患者サポートセンター総合相談窓口
03-5363-3638（午前8時40分～午後4時30分）
- セカンドオピニオン外来事務局
03-3353-1139（午前8時40分～午後4時30分）
- 文書受付窓口（診断書・証明書作成・公費関連書類について）
03-5363-3531（午前8時40分～午後5時00分）
- がん相談支援センター
03-5363-3285（診療日の午前9時00分～午後4時00分）
- 予防医療センター（人間ドックについて）
03-6910-3533（午前8時30分～午後5時00分）
- その他のお問い合わせ（代表）
03-3353-1211

受付時間・休診日

■外来受付時間

午前8時40分～午前11時00分

■休診日

日曜日、第1・3土曜日 / 国民の祝日、休日 / 年末年始（12月30日～1月4日） / 慶應義塾の休日（1月10日、4月23日）

■面会時間

平日：午後3時00分～午後7時00分

土・休日：午後1時00分～午後7時00分



慶應義塾大学病院

慶應義塾大学病院Webサイト
<http://www.hosp.keio.ac.jp/>

〒160-8582 東京都新宿区信濃町35番地
03-3353-1211（代表）



2016.11





慶應義塾大学病院の理念

患者さんに優しく患者さんに信頼される

患者さん中心の医療を行います。

先進的医療を開発し質の高い安全な医療を提供します。

豊かな人間性と深い知性を有する医療人を育成します。

人権を尊重した医学と医療を通して人類の福祉に貢献します。

患者さんの権利と義務

最善の医療の提供は、患者さんと医療機関の十分な信頼関係のうえに成り立ちます。

当院は患者さんに次の権利と義務があると考えています。

患者さんのご理解とご協力をお願いします。

患者さんの権利

人として尊重されプライバシーが保護された医療を受けることができます

安全で安心な最善の医療を受けることができます

ご自身の医療に関して納得できるまで説明を受けることができます

ご自身の意思で医療を選択することができます

ご自身の医療に関して意見や希望を述べるすることができます

患者さんの義務

医療に関して正確に情報提供してください

医療に関する説明に納得できない場合はその旨を伝えてください

法令や院内の規則を遵守し他の患者さんや職員への迷惑行為を厳に慎んでください

研究や教育機能を持つ大学病院の役割を理解してください

受けた医療に対して当院が請求する医療費は遅滞なくお支払いください

ご挨拶

慶應義塾は、1858(安政5)年に福澤諭吉によって創立されました。幕末から明治を経て、近代国家として歩みはじめた日本において、慶應義塾は「独立自尊」や「実学」など建学の精神にもとづく教育によって、文化、政治・経済、科学など、さまざまな分野で礎を造るだけでなくその発展に貢献する多くの人材を輩出してきました。

医学の分野では、1873(明治6)年に医学所(1873~1880年)を開設し英語による医学教授がはじまりました。1917(大正6)年には医学部の創始となる医学科予科、1918(大正7)年に看護医療学部の前身である看護婦養成所が開設され、そして、1920(大正9)年に、慶應義塾大学病院が開院しました。初代医学部長・病院長に迎えられた世界的な細菌学者、北里柴三郎は、「基礎・臨床一体型の医学・医療の実現」「学内は融合して一 가족の如く、全員挙(こぞ)って研鑽に努める」と説き、その開設に心血を注いだといわれています。

当院は、現在29の診療科と14の診療施設部門による診療、そして安心で安全な診療を支え、管理する18の診療支援部門、臨床研究・臨床教育支援部門、管理部門から成り、約2,600人の医療スタッフが、一日平均で約3,000人の外来患者さんと約800人の入院患者さんへ医療活動を展開しています。当院を受診される患者さんの約8割は、高度な医療を必要とする全国各地からの紹介患者さんです。特定機能病院として先進的な医療を提供するとともに、100を超える全国の関連病院等との人材交流や医療連携を通して、地域医療の発展に資することも大切な責務となっています。

福澤諭吉と北里柴三郎、これら二人の先駆者の精神は現在も受け継がれています。全てのスタッフは、患者さん一人ひとりに最適な医療を提供できるよう、個々の技能を磨き、職種横断的にチームワークを高めるため、日々研鑽を積んでいます。これを支援するため、医学部・看護医療学部・薬学部の医療系三学部の連携による患者さん中心のグループアプローチ教育や、コメディカル研修など、学生から医療現場の最前線に立つスタッフまで、質の高い医療人育成のため、慶應の特色を活かした人材教育を展開しています。2015年10月には、慶應義塾大学病院の理念のひとつ、「患者さん中心の医療」の向上のため、病院長特命タスクフォースを設置し、患者さんからのご意見や第三者の評価を受け、病院職員が一体となって病院機能の改善に取り組む仕組みを設けました。また、希少疾患や難治性疾患等の克服を目指す患者さんご自身、そして将来の患者さんのために、高度な治療と臨床研究を患者さんとともに進める大学病院として、臨床研究の相談体制の整備や、適正な運営と信頼性を確保する特定臨床研究監査委員会を発足し、臨床研究体制の充実に努めています。その通過点のひとつとして、2016年3月には革新的な医療を実現する臨床研究や治験を推進する国の「臨床研究中核病院」に私立大学病院で初の認定を受けました。

2017年に医学部は開設100年を迎えます。この節目を迎えるにあたり、大学病院では新病院棟の建設を進めています。この事業は建物を新しくするだけでなく、患者さんを中心に、疾病を克服するために、共にたたかい、寄り添い、総合的に対応できる新たな医療サービスを実現するための体制と、そのための医療環境を構築する取り組みでもあります。慶應義塾大学病院は、これからもたゆまぬ努力を重ね、患者さんに優しく患者さんに信頼される、患者さん中心の医療を提供いたします。

慶應義塾大学病院 病院長 竹内 勤



目次

理念／ご挨拶	1
沿革	3
組織	5
役割と機能	7
医療人の育成	8
先進医療と臨床研究推進体制	9
病院機能改革への取り組み - 2015年から2016年の主な取り組み -	11
新病院棟建設事業／ご寄付について	13
資料	15
構内図	19
患者さんご紹介方法／初診受診ご予約方法／人間ドックのご案内	21



沿革 - 慶應義塾大学 医学部・病院のあゆみ -

1835年 福澤諭吉、大阪中津藩蔵屋敷で誕生

1855年 福澤諭吉、緒方洪庵の適塾に入門

1858年 慶應義塾開塾 江戸築地鉄砲洲に蘭学塾を開く

1860年 福澤諭吉、はじめての外遊 咸臨丸で渡米

1862年 福澤諭吉、遣欧使節として欧州各国を巡歴

1868年 慶應義塾と命名

1871年 慶應義塾、三田に移転

1873年 三田山上に「慶應義塾医学所」設立(～1880年)

1890年 大学部を発足し、文学・理財・法律3科を設置

1892年 北里柴三郎博士を所長とする伝染病研究所設立

1893年 北里柴三郎博士、土筆ヶ岡養生園設立

1901年 2月3日、福澤諭吉逝去

1917年 慶應義塾大学部医学科開設
4月、医学科予科の授業を三田山上で開始
11月、四谷区信濃町の陸軍用地を購入

1918年 医学科附属看護婦養成所開設(～2000年)

1920年 4月、文学・経済学・法学・医学の4学部からなる総合大学へ
11月6日、医学部開校ならびに大学病院開院式
11月8日、慶應医学会第一回総会開催
翌大正10(1921)年『慶應医学』創刊

1922年 医学部附属産婆養成所開設

1923年 関東大震災(火災にあった病院の救済・診療を支援。32万4千人以上の患者を診療。)

1924年 大学病院特別病棟竣工

1926年 食養研究所設立(～1990年)

1928年 多磨墓地に医学研究に献体されたご遺体を葬り冥福を祈るための納骨堂建設
第一回の解剖諸霊供養法会を芝増上寺で開催

1929年 ロックフェラー財団寄付により、予防医学校舎竣工

1932年 新赤倉温泉の地に三四会、赤倉山荘建設(昭和35(1960)年焼失、平成6(1994)年再建)

1932年 病院別館竣工(鉄筋コンクリート地下1階地上4階建、219病床)

1934年 福澤諭吉生誕100年ならびに日吉開校記念祝賀会開催

1936年 日吉第二校舎竣工、日吉キャンパスで医学部教育開始

1937年 北里記念医学図書館竣工

1937年 特殊薬化学研究所設立

1941年 月ヶ瀬温泉治療学研究所開設
昭和33(1958)年狩野川台風により流失、同年廃止

1944年 軍医不足という社会的要請を受け大学附属医学専門部を開設し、463名の人材を輩出(～1951年)



福澤諭吉



北里柴三郎博士



1920年大学病院開院式 開院当時の病院全景 開院当時の病院玄関内部

1945年 5月24日、空襲により医学部・病院施設の約6割焼失

1945年 8月15日、終戦

1946年 基礎医学教室、武蔵野分校へ移転(～1956年春)

1948年 病院本館竣工(戦後最大の木造建築2階建、153病床)

1950年 エール大学ロング教授らを招聘し、CPC(臨床・病理症例検討会)開始

1950年 電子顕微鏡研究室開室

1950年 医学部附属厚生女子学院開設

1952年 新制大学医学部発足
"The Keio Journal of Medicine"創刊

1952年 北里柴三郎博士生誕100年
三四会より第一回北里賞授与

1955年 進学課程2年、専門課程4年の戦後の医学教育体系確立

1956年 大学院医学研究科(博士課程)設置

1958年 慶應義塾創立100年記念式典

1961年 米国チャイナ・メディカル・ボードの寄付を受け、基礎医学第二校舎竣工

1963年 病院中央棟竣工

1965年 病院1号棟竣工
「財団法人慶應がんセンター」発足(～2002年)

1967年 医学部創立50周年記念式

1969年 「医学部改革委員会」設置、臨床講堂竣工

1970年 「財団法人慶應健康相談センター」発足(～2008年)

1972年 北里記念医学図書館(1971年より医学情報センター)の情報サービス部門を独立、「財団法人国際医学情報センター」発足

1973年 病院ボランティア導入(日本病院ボランティア協会に入会)

1974年 三重県伊勢市の病院の寄付を受け、慶應義塾大学伊勢慶應病院を開院(～2003年)

1977年 月ヶ瀬リハビリテーション・センター開設(～2011年)

1979年 医学部共同利用R.I.(ラジオアイソトープ)研究棟竣工

1983年 慶應義塾創立125年記念式典

1984年 米国医科大学での学生臨床研修開始

1986年 大学病院新棟(現2号館)開院

1988年 看護短期大学開設(～2000年)

1990年 第一回自主学習成果発表会



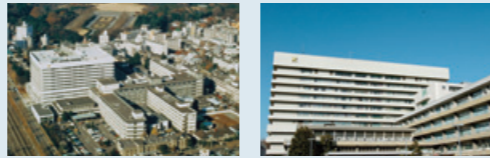
病院本館玄関 病院本館受付



医学部附属厚生女子学院卒業式



医学部創立50周年記念式



大学病院新棟(現2号館)開院当時の病院全景 大学病院正面玄関

1994年 特定機能病院として認定

1994年 大学院医学研究科(修士課程)設置

1996年 医学部新教育研究棟竣工

1996年 坂口光洋記念慶應義塾医学振興基金による第一回慶應医学賞授賞式および記念講演会開催

2001年 看護医療学部開設

2001年 総合医科学研究棟竣工・リサーチパーク発足

2007年 クリニカルリサーチセンター発足
「信濃町キャンパス改革・刷新プロジェクト」設置(～2008年3月)



総合医科学研究棟

福澤諭吉と北里柴三郎

福澤諭吉が北里柴三郎に贈った『贈医(医に贈る)』という言葉

慶應義塾の創立者である福澤諭吉は日本の文明開化の精神的支柱を打ち立て、『学問のすゝめ』等の多くの著作や多くの言葉を残しました。のちに初代医学部長となる北里柴三郎博士が、福澤の支援によって1892年に伝染病研究所を設立した際に、福澤は北里に『贈医(医に贈る)』と命名した七言絶句の漢詩を贈っています。その意味は概略すると以下のようになります。

「医学は天と人との限りの無い勝負である。医師よ『自然(の回復)を助ける立場である』などと言わないでもらいたい。離婁^{*1}のような眼力と、麻姑^{*2}のような手によって、手段をつくすことこそ医学の真髄なのだ。」

*1 離婁[リロウ] 中国の古伝説上の名。百歩離れた場所にある毛ほどの小さいものも見る事ができる視力をもつという。
*2 麻姑[マコ] 仙女の名。美しく、手のつめが長く、鳥のようだったという。「孫の手」は麻姑の手が語源とされる。

その四半世紀後に北里は門下の俊秀を率いて医学部と大学病院の開設に心血を注ぎます。北里は当時の医学界が陥っていた各科分立による弊害を排するために大教室制ともいえる組織を導入。さらに基礎医学と臨床医学の連携を重視しました。また、真に民衆の福祉に貢献する実学としての医学の実践を目指しました。以来、当院は北里が示した理想の医学・医療を追求、体現しながら、患者さん中心の医療を提供しています。

2017年 慶應義塾大学医学部開設100年について

100年の節目にあたり慶應医学のこれまでの100年を振り返り、次の100年へ繋ぐ医学部開設100年記念事業を興します。記念事業には、すでにI期棟が竣工している新病院棟建設事業(※詳細は13～14ページをご覧ください)をはじめ、2017年には記念シンポジウムや冠事業とした各種行事など、慶應医学の今を伝えるさまざまなイベントが催される予定です。記念事業の情報は、今後、開設予定の特設サイトを通じて発信をいたします。慶應医学の伝統である基礎・臨床一体型の医学・医療を実現する一大拠点として、新しい歴史を刻む医学部にご期待ください。



医学部開設100年記念事業の公式ロゴマーク

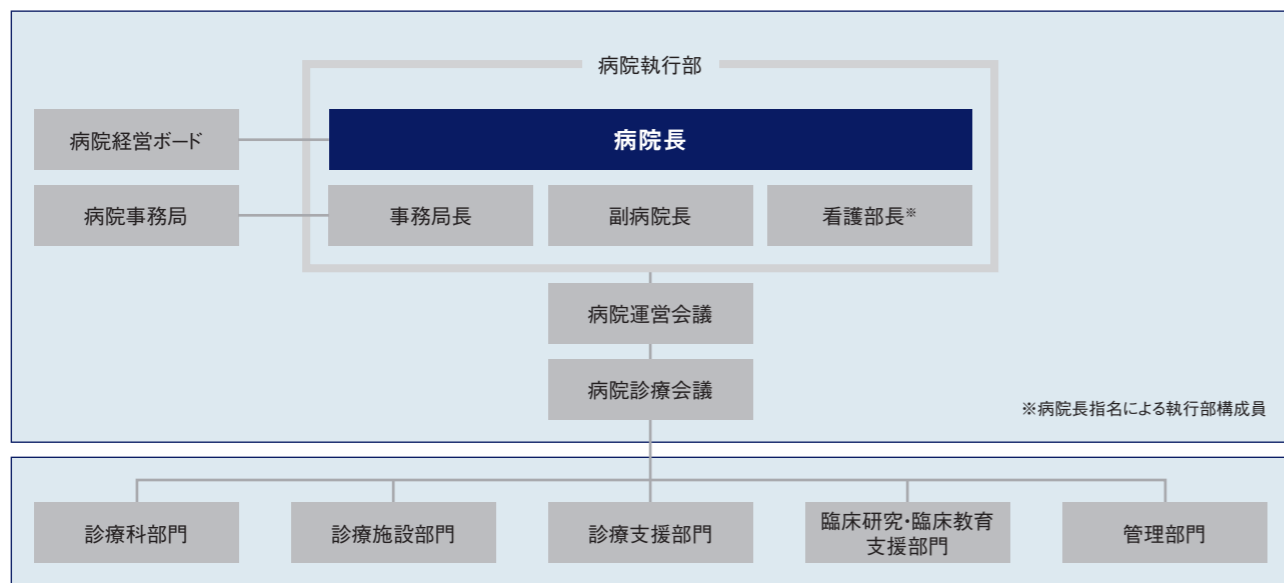


贈医の七言絶句

組織

運営体制

(2016年11月1日現在)



※病院長指名による執行部構成員

組織の構成

(2016年11月1日現在)

管理者

病院長	竹内 勤
副病院長	大家 基嗣
副病院長	北川 雄光
副病院長	佐谷 秀行

副病院長	長谷川 奉延
副病院長	三村 將
病院事務局長	本田 博哉

診療科部門

呼吸器内科	診療科部長(教授)	別役 智子
循環器内科	診療科部長(教授)	福田 恵一
消化器内科	診療科部長(教授)	金井 隆典
腎臓・内分泌・代謝内科	診療科部長(教授)	伊藤 裕
神経内科	診療科部長(教授)	鈴木 則宏
血液内科	診療科部長(教授)	岡本 真一郎
リウマチ内科	診療科部長(准教授)	山岡 邦宏
一般・消化器外科	診療科部長(教授)	北川 雄光
呼吸器外科	診療科部長(教授)	浅村 尚生
心臓血管外科	診療科部長(教授)	志水 秀行
脳神経外科	診療科部長(教授)	吉田 一成
小児外科	診療科部長(教授)	黒田 達夫
整形外科	診療科部長(教授)	松本 守雄
リハビリテーション科	診療科部長(教授)	里宇 明元
形成外科	診療科部長(教授)	貴志 和生

小児科	診療科部長(教授)	高橋 孝雄
産科	診療科部長(教授)	田中 守
婦人科	診療科部長(教授)	青木 大輔
眼科	診療科部長(教授)	坪田 一男
皮膚科	診療科部長(教授)	天谷 雅行
泌尿器科	診療科部長(教授)	大家 基嗣
耳鼻咽喉科	診療科部長(教授)	小川 郁
精神・神経科	診療科部長(教授)	三村 將
放射線治療科	診療科部長(教授)	茂松 直之
放射線診断科	診療科部長(教授)	陣崎 雅弘
麻酔科	診療科部長(教授)	森崎 浩
救急科	診療科部長(教授)	佐々木 淳一
歯科・口腔外科	診療科部長(教授)	中川 種昭
総合診療科	診療科部長(教授)	林 松彦

診療施設部門

予防医療センター	センター長(教授)	岩男 泰
血液浄化・透析センター	センター長(教授)	林 松彦
内視鏡センター	センター長(教授)	緒方 晴彦
腫瘍センター	センター長(教授)	北川 雄光
輸血・細胞療法センター 輸血・細胞療法部	センター長(教授)	田野崎 隆二
スポーツ医学総合センター	センター長(教授)	松本 秀男
漢方医学センター	センター長(教授)	三村 將
臨床遺伝学センター	センター長(教授)	小崎 健次郎
免疫統括医療センター	センター長(教授)	金井 隆典
緩和ケアセンター	センター長(准教授)	橋口 さおり
病理診断部	部長(准教授)	亀山 香織
中央臨床検査部	部長(教授)	村田 満
中央手術部	部長(教授)	北川 雄光
総合集中治療部	部長(教授)	森崎 浩

診療支援部門

看護部	部長	松田 美紀子
薬剤部	部長(教授)	望月 眞弓
中央滅菌医療資材室	室長	小原 佐之
食養管理室	室長	朝倉 崇
医用工学室	部長(教授)	大家 基嗣
放射線技術室	室長	朝倉 崇
臨床検査技術室	室長	柴田 綾子

臨床研究・臨床教育支援部門

臨床研究推進センター	センター長(教授)	佐谷 秀行
卒後臨床研修センター	センター長(教授)	平形 道人

管理部門

病院情報システム部	部長(教授)	天谷 雅行
医療安全対策センター	センター長(教授)	長谷川 奉延
感染制御センター	センター長(教授)	岩田 敏
患者サポートセンター	センター長(教授)	三村 將
入退院センター	センター長(専任講師)	朴 沢 重成
放射線安全管理室	室長(教授)	茂松 直之
新病院棟開設準備室	室長(教授)	渡辺 真純
医事統括センター	次長	三保谷 照和
医療保険指導部	部長(教授)	平形 道人

診療クラスター

IBDセンター	センター長(教授)	金井 隆典
メモリーセンター	センター長(教授)	鈴木 則宏
周産期・小児医療センター	センター長(教授)	高橋 孝雄

病院経営ボード

(学外)		小松本 悟
		佐治 信忠
		山本 修三
(学内)	常任理事	駒村 圭吾
	常任理事	清水 雅彦
	常任理事	戸山 芳昭
	常任理事	増野 匡彦
	常任理事	渡部 直樹
	塾監局長	山本 尚明
	医学部長	岡野 栄之
	病院長	竹内 勤
	副病院長	北川 雄光
	医学部長補佐	高橋 孝雄
	看護部長	松田 美紀子
	病院事務局長	本田 博哉

役割と機能

特定機能病院 – さまざまな連携と最適な医療の実践 –

患者さん一人ひとりの症状に合った適切な医療を提供するために、病院、診療所、クリニックといった各医療機関は、それぞれが持つ機能によってさまざまな役割を担っています。その中で慶應義塾大学病院は、国や自治体から「特定機能病院」「地域がん診療連携拠点病院」といった役割の指定を受けています。

当院では、高度な医療を提供するとともに、高度な研究・開発・研修を行う「特定機能病院」として、一般の医療機関では実施することが難しい専門医療を必要とする患者さんや、病気が進行中の急性期の患者さんの治療を行うため、他の病院や診療所から紹介を受けた患者さんの診療を行っています。また、継続的なフォローアップなど、患者さんにとって地元の医療機関の方が通院に適切な場合、紹介元の医療機関へ再び紹介する（逆紹介）ことも行っています。

また、当院では、下記をはじめとする、さまざまな体制で、他の医療機関と、より結びつきの強い連携を行っています。

連携機関	慶應義塾大学関連病院会	http://www.sanshikai.jp/kanren-byouin/
	連携契約医療機関	http://www.hosp.keio.ac.jp/annai/raiin/renkei/
	救急連携医療機関	
	慶應義塾大学医学部三四会医療機関	http://www.sanshikai.jp/service/shinryou-kensaku/clinic.html
	地域医療機関・介護・保健機関	
その他		

「さまざまな連携による最適な医療の実践」については、以下のURLをご覧ください。

詳細 | <http://www.hosp.keio.ac.jp/about/special/jissen/>



病院開設許可(承認)、法令等による医療機関の指定等状況

病院開設許可(承認)

名称	指定等の年月日
医療法第7条第1項による開設許可(承認)	1920年11月 6日
特定機能病院の名称の使用承認	1994年 2月 1日
医療法第4条の3第1項に基づく臨床研究中核病院の認定	2016年 3月25日

法令等による医療機関の指定

名称	指定等の年月日	
消防法による救急医療(救急病院・診療所)	1965年 3月18日	
健康保険法による(特定承認)保健医療機関	1986年 1月 1日	
国民健康保険法による(特定承認)療養取扱機関	1986年 1月 1日	
労働者災害補償保険法による医療機関	1959年 2月 6日	
地方公務員災害補償法による医療機関	1959年 2月 6日	
原爆医療法 一般医療	1960年10月 1日	
戦傷病者特別援護法による医療機関	1954年11月 4日	
母子保健法	妊娠中毒	1972年10月 1日
	妊婦・乳児健康診査	1972年10月 1日
	養育医療	1959年 2月 6日
生活保護法による医療機関	1956年 5月 2日	
児童福祉法	育成医療	1952年 8月 1日
	療育医療	1952年 8月 1日

先天性血液凝固因子障害等治療研究事業

名称	指定等の年月日
先天性血液凝固因子欠乏症	1989年 9月 1日

名称	指定等の年月日
身体障害者福祉法による医療	1954年11月 4日
精神保健法による医療機関	1965年10月 1日
結核予防法による医療機関	1960年10月 4日
臨床研修指定病院(外国医師・外国歯科医師)	1988年 3月29日
エイズ拠点病院認定	1996年11月15日
災害拠点病院指定	1997年 2月28日
地域がん診療連携拠点病院	2011年 4月 1日
難病医療費助成指定医療機関	2015年 1月 1日
地域周産期母子医療センター	2004年 6月 1日
地域リハビリテーション支援センター	2004年10月 1日
結核指定医療機関	2011年 2月 1日
小児慢性特定疾病指定医療機関	2015年 1月 1日

医療人の育成 – 未来を拓く医療人の育成を目指して –

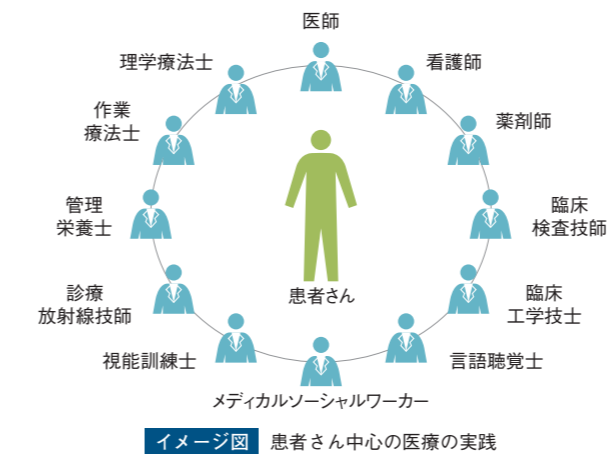
初代医学部長・病院長の北里柴三郎博士が提唱したのは、「基礎医学と臨床医学の連携を緊密にし、学内は融合して一家族の如く」という基本理念でした。さまざまな症例の実績を持つ慶應義塾大学病院は、臨床の現場から、患者さん一人ひとりに最適な医療を提供することを通じて、次世代の良質な医療に発展させ、医療に加えて臨床研究においても先導的な役割を果たしています。

このように、社会から負託された、先進的な大学病院機能を支え、未来を拓く高度の医療人材の育成という大きな使命を実現するために、慶應義塾大学は、学部教育において、2011年度より、医療系三学部(医学部・看護医療学部・薬学部)合同教育「グループアプローチによる患者中心の医療実践教育プログラム」を実施しています。専門性を高めながら、同時に分野横断的に総合的な視点で物事を鳥瞰し得る医療人材の育成を目指しています。また、積極的に他機関からの病院実習の要請にも応え、広く院外の医療人材育成にも貢献しています。

入職後は、職種別に用意される育成プログラムを通じて専門性を高めるとともに、患者サポートセンターに寄せられる患者さんからのさまざまなご要望への対応、あるいは2018年に完成を予定している新病院棟に関するさまざまなワーキンググループ、新しい治療法への取り組みなど、日常的に必要な案件ごとにプロジェクトチームが編成され、職種を超えて、患者さん中心に協働しながら総合的に問題の解決に取り組んでいます。これらを通じた職種横断的な議論による提案は、病院全体としての標準化推進やルールの明確化等を含め、病院業務の向上改善に直結して効果を挙げており、医療人材育成の実務学習の仕組みは、恒常的に機能しています。また、コメディカルスタッフについては、2013年度よりコメディカル研修を開始し、現場力向上という目標を掲げて多職種が交差するトレーニングを可能とし、チーム医療の推進に一役かっています。

また、2015年12月より、質の高い臨床研究や治験を推進し、社会を牽引していく病院として、臨床研究をテーマとした研修を開始し、未来の医療を築く人材育成の機会も提供しています。

北里柴三郎初代医学部長・病院長の説いた「基礎・臨床一体型の理念」は、患者さん中心の医療を実践するプロフェッショナリズムに根づいた慶應義塾大学病院の未来を拓く医療人材育成のバックボーンとして、今日に至るまで脈々と息づいています。



医療系三学部合同教育について

慶應義塾大学では、医療系三学部(医学部・看護医療学部・薬学部)で合同教育を行い、学生のうちから交流を深め、将来、患者さん中心のグループアプローチによる医療が実践できる医療人に成長することをサポートしています。(詳細 <http://ipe.keio.ac.jp/>)



左から、臨床工学技士、薬剤師、臨床検査技師、看護師、診療放射線技師、医師(研修医)、看護師、医師(専修医)

慶應義塾大学 医療系学部・大学院学生数(2015年度)

大学院	医学研究科	395
	健康マネジメント研究科	113
	薬学研究科	118
大学	医学部	677
	看護医療学部	435
	薬学部	1,197

医師研修受け入れ人数 (2015年度)

初期臨床研修(研修医課程)	96
後期臨床研修(専修医課程)	689

上記のほか、専門職を目指す実習生を学外から280人(2015年度延べ)受け入れました。

先進医療と臨床研究推進体制

慶應義塾大学は、医学、看護医療学、薬学、理工学、環境情報学など、生命医科学・医療の分野に直接関わる多彩な学部・大学院や先端生命科学研究センターなどの研究所を擁し、密接に連携・協働することを通して、総合的に研究を推進しています。2016年4月には、ウェルビーイング研究を推進する殿町タウンキャンパスが開設され、ライフサイエンス・ヘルスケア分野の先端的な研究開発から実用化に向けた取り組みを推進しています。慶應義塾大学病院は、2014年8月、臨床研究推進センターを設置し、トランスレーショナルリサーチから臨床研究・治験までの各研究開発プロセスを一貫して完遂する体制を整備しました。また、2016年3月25日には、日本の革新的医薬品・医療機器の開発に必要な質の高い臨床研究・治験を推進し、国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的な役割を担う病院として、医療法に基づく臨床研究中核病院の認定を受けました。

先進医療

先進医療A (2016年8月1日現在)

名称	実施診療科	承認年月日
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	眼科	2008年10月1日
前眼部三次元画像解析	眼科	2011年7月1日
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	歯科・口腔外科	2012年7月1日
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	脳神経外科	2013年12月1日

先進医療B (2016年8月1日現在)

名称	実施診療科	承認年月日
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	一般・消化器外科	2013年1月1日
パクリタキセル静脈内投与(1週間に1回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(3週間に1回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	産婦人科	2013年1月1日
腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん	一般・消化器外科	2014年1月1日
全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロビドグレル硫酸塩、ピタバスタチン、カルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腸骨頭壊死発症抑制療法 全身性エリテマトーデス(初回の副腎皮質ホルモン治療を行っている者に係るものに限る)	リウマチ内科	2014年8月1日
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法 初発の中脳神経系原発性リンパ腫(病理学的見地からびまん性大細胞型B細胞リンパ腫であると確認されたものであって、原発部位が大脳、小脳又は脳幹であるものに限る。)	脳神経外科	2015年3月1日
ゾレドロン酸γδT細胞を用いた免疫療法 非小細胞肺癌(従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	呼吸器内科	2015年5月1日
FDGを用いたボジトロン断層・コンピューター断層複合撮影による不成熟の診断不明熱 (画像検査、血液検査及び尿検査により診断が困難なものに限る。)	リウマチ内科 放射線診断科	2015年9月1日

治験データ

治験審査委員会で承認された新規治験契約件数

年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
医薬品	45	51	44	42	32
医療機器	1	6	1	2	3
医師主導	3	0	3	7	4
計	49	57	48	51	39

※当該年度に承認された新規治験契約数を年度ごとに集計

臨床研究データ

医学部倫理委員会で承認された新規研究課題件数

年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
臨床研究	310	408	425	411	385
その他(医療計画、疫学研究 他)	51	55	46	34	28
計	361	463	471	445	413

※当該年度に承認された新規申請課題を年度ごとに集計(前年度申請分を含む)

【産・学・医療の連携拠点】

JSR・慶應義塾大学 医学化学イノベーションセンター

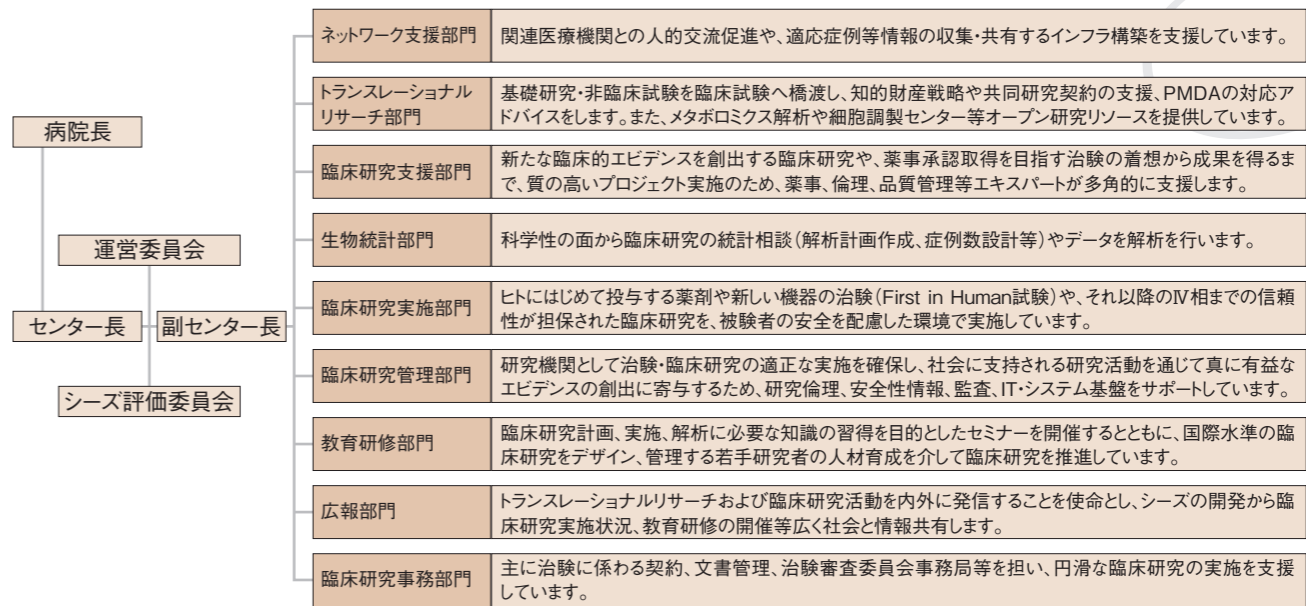
慶應義塾とJSR株式会社は、産・学・医療の連携拠点と位置付ける地上3階、地下1階の共同研究棟「JSR・慶應義塾大学 医学化学イノベーションセンター(通称JKIC)」を信濃町キャンパスに建設し、共同で運営していきます(2017年8月竣工予定)。ライフサイエンス領域を戦略事業と位置付けて先端材料・製品の開発を進めるJSR株式会社の化学素材の研究者と、基礎・臨床一体型の医学・医療を推進する本学医学部・病院の研究者が産学医連携支援の下、密接に交流することで、医療分野の幅広いニーズや先進的アイデアを実現し、健康長寿社会を支える新たな診断・治療技術や医療支援技術の確立と普及につながる研究・事業創造を行います。



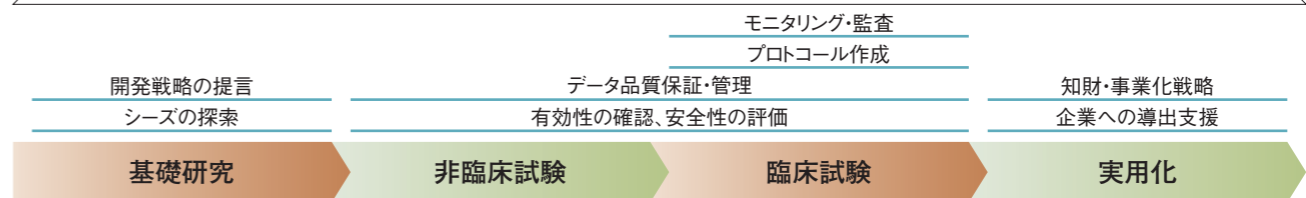
臨床研究推進センターの取り組み

慶應義塾大学病院は、2015年12月15日、「臨床研究実施方針」(12ページ)を定めました。この方針のもと、臨床研究推進センターは、研究室から生まれる基礎研究の成果を安全で有効な医療手段として患者さんに届けるため、研究開発の各段階に応じた支援体制を構築しています。

臨床研究推進センターの組織・支援体制



臨床研究推進センターにおけるシーズの開発段階に応じた支援体制



臨床研究推進センターの詳細はホームページをご覧ください。 <https://www.ctr.hosp.keio.ac.jp/>

首都圏ARコンソーシアム Metropolitan Academic Research Consortium (MARC) の設置

慶應義塾大学病院は、アカデミアの基礎研究の成果の実用化を促進するため、首都圏の私立大学をはじめとする臨床研究機関が連携協力し、橋渡し研究・臨床研究の包括的な支援体制を実現するコンソーシアムを構築しました。



【産学官連携拠点】

殿町タウンキャンパス開設

2020年には対岸の羽田空港と連絡道路が結ばれ、大きな成長が期待される、川崎市「殿町国際戦略拠点キングスカイフロント」に、2016年4月、慶應義塾大学殿町タウンキャンパスを開設しました。科学技術振興機構(JST)の「世界に誇る地域発研究開発・実証拠点(リサーチコンプレックス)推進プログラム」により展開される事業は、慶應義塾大学を中核機関として、川崎市や神奈川県等の自治体、同エリアに集積する大学・研究機関・企業と協働し、「再生・細胞医療、実験動物」、「AIと連携するヘルスケアオペレーションシステム」、「ロボティクス・医療機器」、「分子設計・ナノファブリケーション」の4分野を中心に、ライフサイエンス・情報・ものづくりを融合した技術革新と社会実装の加速化による新分野や新産業の創出が期待されています。



2020年の殿町

■ 病院機能改革への取り組み - 2015年から2016年の主な取り組み -

慶應義塾大学病院は、病院の理念である患者さん中心の医療を実現するために、病院全体で様々な形で機能改革に取り組んでいます。新しい医療・医学の進歩は、臨床研究によってもたらされますが、臨床研究においては、科学的・社会的利益よりも、被験者保護に対する考え方を常に優先しなければなりません。慶應義塾大学病院は、「臨床研究中核病院^{※1}」の申請を通じて、2015年10月、「病院長特命タスクフォース」を設置し、改めて病院機能改革への取り組みを開始しました。外部有識者で構成する病院長特命タスクフォース委員からのご意見、視点を病院内に反映するため、病院機能の改革、改善に努め、早急な課題解決を実施しています。

具体的な取り組み

- ①大学病院規程を制定して、病院長の権限を明確化し、ガバナンス体制を強化しました。
- ②「病院機能改革の基本方針」と「臨床研究実施方針」を制定しました。(12ページ参照)
- ③病院の理念や方針に基づき、病院スタッフ各自で目標掲げるミッションカードを作成し病院スタッフ全員が所持するようにしました。
- ④患者さんが医療などに関してより相談しやすい環境づくりを構築するために、病院正面玄関の横に「総合相談窓口」を設置しました。
- ⑤接遇研修やメディエーション研修を実施し、コミュニケーション力の向上を図っています。
- ⑥毎朝、正面玄関にて病院スタッフが患者さんにごあいさつと声かけを励行し、日々の気づきを改善につなげています。
- ⑦患者満足度調査を実施し、調査結果を公開しました。
- ⑧病院内の掲示板や看板を整備しわかりやすいご案内に努めています。



総合相談窓口



あいさつ声かけ活動の様子



新設した正面玄関の掲示板

病院職員全員によるこうした実践と、特定臨床研究監査委員会、臨床研究ガバナンス委員会、臨床研究利益相反マネジメント委員会などの委員会を新たに設置・実施し、質の高い臨床研究を適正に行う体制の整備が評価され、私立大学病院ではじめて「臨床研究中核病院^{※1}」に認定されました。そのことを励みにして、患者さん中心の医療をより一層推進いたします。

臨床研究中核病院^(※1)

2015年に医療法に定められ、日本発の革新的な医薬品・医療機器・医療技術の開発に必要な質の高い臨床研究や治験を推進するため、国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的役割を担う病院として、厚生労働大臣が承認するもの。承認要件として、臨床研究計画の立案と実施の実績、臨床研究支援体制、データ管理体制、安全管理体制、倫理審査体制、利益相反管理体制、知的財産管理・技術移転体制、国民への普及・啓発および研究対象者への相談体制など、さまざまな体制整備が求められる。2015年度、全国で8病院が臨床研究中核病院として認定された。



2016年度になり、病院機能改革の牽引役であった「病院長特命タスクフォース」のミッションを総括し、これまでの取り組みを発展的に継承するため、また、病院スタッフが今後も主体的かつ継続的に機能改革に取り組むことを支援するため、あらたに「病院機能改革アドバイザー会議」を設置しました。アドバイザー会議の委員は、タスクフォースと同様に外部有識者で構成され、外部の視点から当院の体制や運営実態および改善活動の取り組み状況について客観的に点検・評価を行い、具体的課題を病院長に提言する役割を担います。同時に「特定機能病院監査委員会」を発足し、今後、より医療安全管理体制の要件を厳しく求められる特定機能病院として、引き続き病院機能改革を進めてまいります。

そのほかにも、病院ではさまざまな取り組みを進めています。たとえば、外科と内科の外来受付について、外来患者さんのストレスとなる待ち時間の短縮や、受付から会計までのワンストップサービスを実現し、よりよい医療環境を提供するため、段階的に改善に取り組んでいます。そのほか、初診受付、採血、薬の処方、会計などにおいても、待ち時間の短縮に向けて取り組んでいます。これらの取り組みは、新病院棟の外来に活かしてまいります。

また、病院スタッフ同士のコミュニケーションをより充実し、改善案を組織内に反映させるため、病院長と若手スタッフの懇談会を実施するなど、風通しのよい風土を構築し、チーム医療の推進に役立っています。今後も患者さんの声を活かしながら、積極的に機能改革に取り組む、2018年の新病院棟の開設に向けて準備を進めてまいります。

病院機能改革の基本方針

私たちは、慶應義塾大学病院の理念を実践していきます。

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者さんの立場で 2. 質の高い安全な医療 3. 不断の自己点検 4. 独立自尊の医療人 5. 総合的なチーム医療 6. 新しい医療 7. 倫理と人権 | <p>私たちは、患者さんの立場になって考え、ともに疾病の克服に努めます。</p> <p>私たちは、質の高い安全な医療を持續できるよう努めます。</p> <p>私たちは、不断の自己点検と評価によって、病院機能の改善に努めます。</p> <p>私たちは、独立した一個人として責任をもって社会的使命を果たします。</p> <p>私たちは、各職種が一体となった総合的なチーム医療を展開します。</p> <p>私たちは、基礎と臨床が一体となって、積極的に新しい医療に挑戦します。</p> <p>私たちは、高い倫理性を持って、人権を尊重した医療を推進します。</p> |
|--|---|

臨床研究実施方針

慶應義塾大学病院は、未来のよりよい医療のため、次の方針にもとづく臨床研究を行います。

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 被験者保護 2. 法令遵守 3. 公正な研究活動 4. 人材育成 5. 社会還元 | <p>被験者の人権保護を第一優先に、十分に説明し、同意をいただく。</p> <p>法令・指針・社会規範等を遵守し、倫理と化学に立脚した研究を行う。</p> <p>気品の泉源・智徳の模範たる組織として、不正を容認しない。</p> <p>未来の医療を拓く質の高い研究者、医療人を育成する。</p> <p>研究成果の実用化を推進し、他施設の臨床研究を積極的に支援する。</p> |
|---|---|

■ 新病院棟建設事業

新病院棟建設を中核とした世界に冠たる総合医学府の構築

慶應義塾は医学部開設100年を迎える2017年度を目指して、現在、新病院棟を建築中です。刻一刻と変化する病状に対して、各専門の医師たちが「患者さんを中心に、共に戦い、寄り添う」を信条として、『クラスター診療の実施』、『安全・安心に受けられる世界最先端の医療技術の開発』、『超高齢社会で急増している複数の疾患を併発されている患者さんに総合的に対応できる医療サービスの提供』をお約束いたします。患者さんにご満足いただける最良の医療を提供するために、そして日本の医療を先導し、世界の病める人々の救済に貢献するために、新病院棟を中核として右の4つの事業計画を推進いたします。

- I** 全ての医療チームが結集し、国民の健康増進と疾患制圧に貢献するクラスター診療の実現
- II** 世界最先端の基礎臨床一体型医学の展開による国際医療拠点の創設
- III** 災害に強い都市型地域医療の推進
- IV** 医看薬の連携による世界を先導する医療人の育成

進捗について

1号館(新病院棟)は2015年夏に放射線治療・診断部門、内視鏡部門、生理検査、外来、病棟などを擁するI期棟が竣工しました。現在は、2018年3月の竣工を目指して、1号館II期棟の建設を進めています。



I期棟外観



II期棟建設状況(2016年10月時点)

■ 解体・新築スケジュール



上記は2016年10月現在のスケジュールです。

■ ご寄付について

慶應義塾大学病院では、当院内外の皆様のご芳志を、診療、医学教育、医学研究の発展のために活用させていただいております。当院に対するご寄付は、税制上の寄付金控除を受けることができます。また、ご寄付に際しましては、新病院棟の事業資金、医学研究の発展に対するご支援、医学生の育成へのご支援等、具体的な用途をご指定いただくことができます。ご支援をお考えの方は、担当窓口までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

担当窓口	対応部門	ご連絡先
1 医学部開設100年記念事業 「新病院棟建設事業募金」 http://www.nhwp.keio.ac.jp/		秘書課 (信濃町キャンパス) 03-5363-3606(平日:午前9時00分~午後5時00分)
2 病院備品指定寄付金		
3 慶應義塾大学病院または 慶應義塾全体に対するご支援		基金室 (三田キャンパス) 03-5427-1717(平日:午前9時00分~午後5時00分) kikin-box@adst.keio.ac.jp
4 寄付金全般、寄付金控除に関するご相談		http://www.kikin.keio.ac.jp/

1号館(新病院棟) I期棟について

1号館(新病院棟) I期棟は、地下1階に放射線治療部門、1階および2階に放射線診断部門、3階に外来や生理検査部門、4階および6階に病棟、5階に内視鏡部門が配置されています。既存の建物とは1階で中央棟、2階および3階で2号館とそれぞれ連絡しております(3階はスタッフ専用)。

なお、I期棟の一部フロアはII期棟完成後に機能の再編・改修工事を行う予定です。

I期棟フロア構成

6階	6E病棟	
5階	内視鏡部門	
4階	4E病棟	
3階	外来・生理検査など	連絡通路 (スタッフ専用)
2階	放射線診断部門 (MRI)	連絡通路
1階	放射線診断部門 (CT・造影)	連絡通路
地下1階	放射線治療部門	



6E病棟(6階)



内視鏡センターX-TV室(5階)



外来診察室前廊下(3階)

資料

基礎データ

区分	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
病床数(床)	1,059	1,059	1,044	1,044	1,044
病床稼働率(%)	81.8	79.9	80.7	75.7	75.2
外来患者数延べ人数(人)	789,541	786,180	797,263	809,573	827,169
1日平均外来患者数(人)	2,892	2,923	2,964	2,987	3,064
入院患者数延べ人数(人)	317,165	306,076	289,090	288,438	287,298
1日入院患者数(人)	866.6	838.6	792	790.2	785.0
平均在院日数(日)	11.8	11.6	11.4	11.8	11.5
新生児入院数	601	572	544	657	683
手術件数(件)	13,785	13,912	14,373	13,860	14,386
手術全身麻酔件数(件)	7,401	7,386	7,629	7,527	7,566
救急患者数(人)	21,238	23,861	21,506	17,560	17,478
紹介率(%)	57.2	62.2	66.6	88.2	87.3
逆紹介率(%)	49	39.4	38.9	50.5	46.4
分娩件数(件)	591	546	538	636	708
セカンドオピニオン(人)	438	417	380	364	485

外来患者数(人)

(2015年度)

年間新規患者数	45,110
年間延べ患者数	827,169
1日平均患者数	3,064

入院患者数(人)

(2015年度)

年間新規患者数	23,989
年間延べ患者数	287,298
1日平均患者数	785.0

診療科別データ

外来患者数(人)

(2015年度)

診療科名	外来患者数					
	年間			1日平均		
	初診	再診	合計	初診	再診	合計
呼吸器内科	703	29,972	30,675	3	111	114
循環器内科	1,200	35,891	37,091	4	133	137
消化器内科	1,839	65,461	67,300	7	242	249
腎臓・内分泌・代謝内科	649	52,918	53,567	2	196	198
神経内科	727	27,675	28,402	3	103	105
血液内科	326	17,069	17,395	1	63	64
リウマチ内科	546	29,836	30,382	2	111	113
一般・消化器外科	1,042	40,892	41,934	4	151	155
呼吸器外科	280	5,999	6,279	1	22	23
心臓血管外科	199	6,854	7,053	1	25	26
脳神経外科	807	10,652	11,459	3	39	42
小児外科	236	3,042	3,278	1	11	12
整形外科	4,176	50,344	54,520	15	186	202
リハビリテーション科	203	6,689	6,892	1	25	25
形成外科	962	8,461	9,423	4	31	35
小児科	1,903	21,279	23,182	7	79	86
産婦人科	3,299	56,396	59,695	12	209	221
眼科	3,125	46,814	49,939	12	173	185
皮膚科	1,890	41,159	43,049	7	152	159
泌尿器科	943	35,255	36,198	3	131	134
耳鼻咽喉科	3,161	33,727	36,888	12	125	137
精神・神経科	821	33,303	34,124	3	123	126
放射線治療科	117	17,691	17,808	0	66	66
放射線診断科	730	227	957	3	1	4
麻酔科	30	6,669	6,699	0	25	25
救急科	5,397	1,729	7,126	20	6	26
歯科・口腔外科	5,063	42,189	47,252	19	156	175
総合診療科	301	7,443	7,744	1	28	29
その他	4,435	46,423	50,858	16	171	187
合計	45,110	782,059	827,169	167	2,897	3,064

*1日平均を表示する際に端数を四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

入院患者数・平均在院日数

(2015年度)

診療科名	入院患者数(人)		平均在院日数
	年間	1日平均	
呼吸器内科	19,836	54.2	12.7
循環器内科	16,289	44.5	7.1
消化器内科	19,574	53.5	9.9
腎臓・内分泌・代謝内科	11,475	31.4	13.7
神経内科	9,692	26.5	17.5
血液内科	15,445	42.2	30.1
リウマチ内科	7,623	20.8	23.2
一般・消化器外科	34,691	94.8	14.7
呼吸器外科	4,598	12.6	10.2
心臓血管外科	8,528	23.3	16.4
脳神経外科	10,671	29.2	20.4
小児外科	3,692	10.1	8.7
整形外科	27,958	76.4	13.3
リハビリテーション科	1,491	4.1	26.6
形成外科	4,054	11.1	7.6
小児科	19,730	53.9	8.7
産婦人科	23,724	64.8	7.3
眼科	5,640	15.4	3.5
皮膚科	6,228	17.0	13.4
泌尿器科	12,386	33.8	8.4
耳鼻咽喉科	9,617	26.3	9.5
精神・神経科	10,314	28.2	31.5
放射線治療科	0	0.0	0.0
放射線診断科	0	0.0	0.0
麻酔科	42	0.1	5.2
救急科	1,733	4.7	6.8
歯科・口腔外科	2,263	6.2	9.8
感染症外来	4	0.0	1.0
合計	287,298	785.0	11.5

*1日平均・平均在院日数を表示する際に端数を四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

手術件数

(2015年度)

診療科名	件数
内科	498
一般・消化器外科	1,462
小児外科	241
心臓血管外科	483
呼吸器外科	320
脳神経外科	476
麻酔科	26
整形外科	1,971
形成外科	698
産婦人科	2,304
眼科	2,667
皮膚科	493
泌尿器科	893
耳鼻咽喉科	936
精神・神経科	400
歯科・口腔外科	416
救急科	35
その他	61
合計	14,380

保険手術実績一覧

各手術の区分は、厚生労働省の定める施設基準の分類に基づく。

区分1に分類される手術一覧

該当する手術一覧	件数(例)		
	2013年	2014年	2015年
ア 頭蓋内腫瘍摘出術等	237	218	231
イ 黄斑下手術等	382	401	395
ウ 鼓室形成手術等	140	121	141
エ 肺悪性腫瘍手術等	93	101	197
オ 経皮的カテーテル心筋焼灼術	338	332	334

区分2に分類される手術一覧

該当する手術一覧	件数(例)		
	2013年	2014年	2015年
ア 靭帯断裂形成手術等	80	56	67
イ 水頭症手術等	55	54	72
ウ 鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	8	3	7
エ 尿道形成手術等	27	43	37
オ 角膜移植術	76	68	50
カ 肝切除術等	42	50	110
キ 子宮付属器悪性腫瘍手術等	128	118	106

区分3に分類される手術一覧

該当する手術一覧	件数(例)		
	2013年	2014年	2015年
ア 上顎骨形成術等	8	10	27
イ 上顎骨悪性腫瘍手術等	12	12	22
ウ バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	0	0	0
エ 母指化手術等	5	3	2
オ 内反足手術等	1	0	0
カ 食道切除再建術等	56	35	56
キ 同種死体腎移植術等	11	7	18

区分4に分類される手術一覧

該当する手術一覧	件数(例)		
	2013年	2014年	2015年
胸腔鏡下手術、腹腔鏡下手術	1,157	1,152	1,298

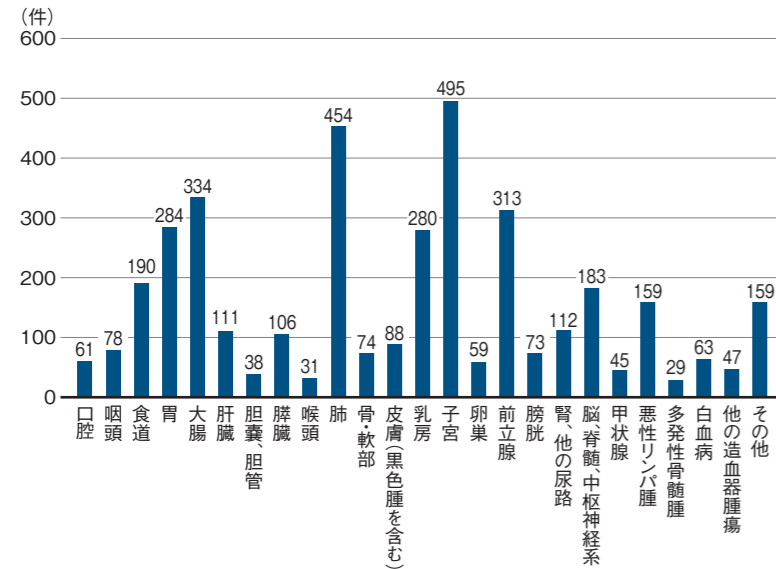
その他の手術

該当する手術一覧	件数(例)		
	2013年	2014年	2015年
5 人工関節置換術	243	257	311
6 乳児外科施設基準対象手術	26	25	61
7 ベースメーカー移植術及びベースメーカー交換術	89	83	96
8 冠動脈、大動脈バイパス移植術(人工心臓を使用しないものを含む。)及び体外循環を要する手術	244	221	298
9 経皮的冠動脈形成術	21	36	29
急性心筋梗塞に対するもの	10	2	1
不安定狭心症に対するもの	11	3	3
その他のもの	0	31	25
経皮的冠動脈粥腫切除術	0	0	0
経皮的冠動脈ステント留置術	251	258	303
急性心筋梗塞に対するもの	80	24	17
不安定狭心症に対するもの	169	22	46
その他のもの	2	212	240

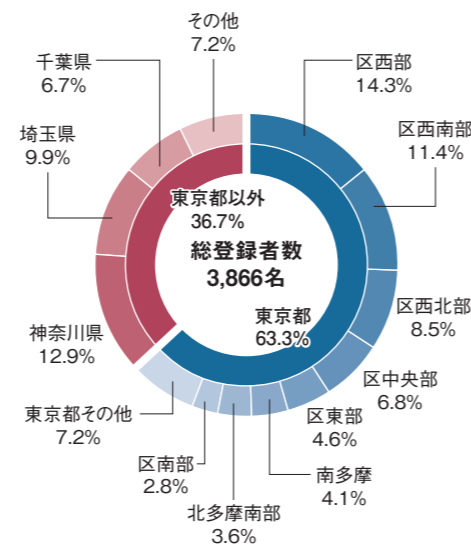
院内がん登録件数

(2015年)

部位別登録件数



地域別がん登録割合



薬剤・輸血関連実績

(2015年度)

内訳	件数等
処方せん枚数(枚)	外来：390,579、入院：210,692
入院注射薬調製件数(件)	抗がん剤：13,734、一般注射薬：98,489
外来注射薬調製件数(件)	抗がん剤：12,317、抗体製剤：9,912、一般注射薬：13,015
薬剤管理指導件数(件)	23,866
輸血用血液製剤使用数(単位)	55,840

画像・検体・生理機能検査実績

(2015年度)

内訳	件数
CT	47,579
MRI	25,353
超音波検査(循環器以外)	20,105
核医学 PET+SPECT	11,704
IVR(画像下治療)+血管造影	1,085
検体検査	8,218,709
生理機能検査	100,443

職員数(人)

(各年度3月1日現在)

内訳	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
臨床系医師(うち研修医)	828(67)	856(71)	854(68)	871(61)	843(71)
歯科医師(うち研修医)	42(14)	42(15)	41(16)	44(16)	45(16)
看護師	1,019	1,005	964	984	999
薬剤師	95	90	91	85	94
臨床検査技師	122	123	124	131	129
診療放射線技師	66	76	77	78	76
管理栄養士	22	16	15	21	17
栄養士	11	16	15	11	8
視能訓練士	13	12	13	13	15
臨床工学技士	24	24	21	25	24
理学療法士	12	13	12	13	13
作業療法士	4	4	4	4	4
言語聴覚士	5	5	5	5	5
その他技師	65	61	60	58	56
事務職員	220	219	215	217	246
技能員	125	113	124	113	108
職員合計	2,673	2,675	2,635	2,673	2,682

財務(事業活動収支内訳)

慶應義塾は学校法人会計基準に則って会計処理を行っています。下の表は基準に定められた計算書のうち、当該会計年度の事業活動収入と事業活動支出の内容および収支均衡の状態を明らかにするための事業活動収支計算書の形式で、医学部(信濃町メディアセンターを除く)と大学病院の合計額を表したものです。

また、大学病院の経費は、文部科学省の通知に従い、医療業務に要する経費は、教育研究経費のうち「医療経費」として処理し、その他の経費については、大学における処理と同様に、教育研究経費と管理経費に区分して処理しています。

※2015年度より学校法人会計基準が一部改正され、計算書類の表示方法や名称等が変更しています。

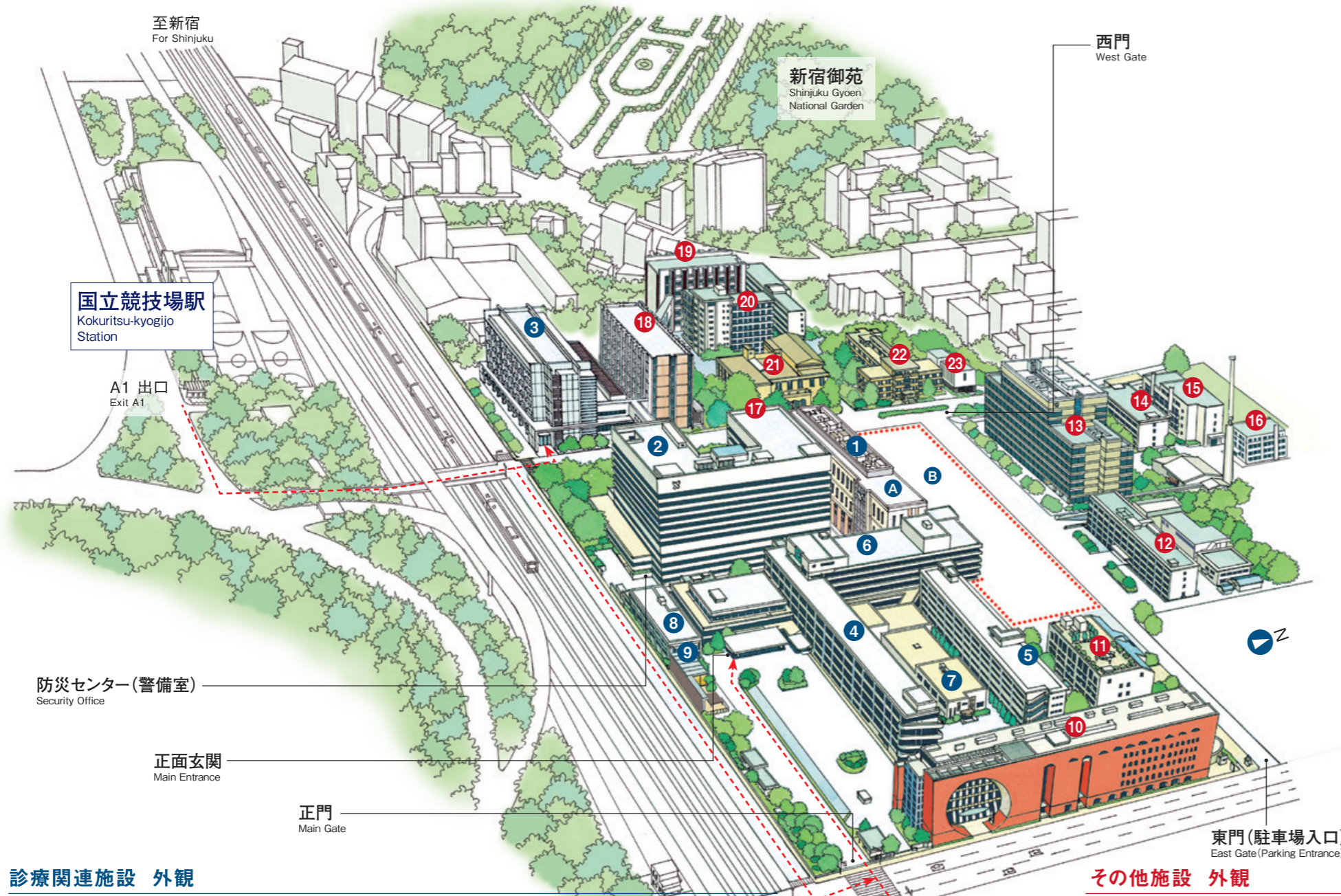
(単位:千円)

科目	医学部・大学付属病院	慶應義塾全体
教育活動収支		
事業活動収入の部		
学生生徒等納付金	2,963,725	53,357,413
手数料	112,804	2,278,901
寄付金	1,651,182	6,419,522
経常費等補助金	3,458,965	13,714,573
付随事業収入	6,906,742	12,938,679
医療収入	55,460,057	55,460,057
雑収入	1,830,814	4,471,451
教育活動収入計	72,384,289	148,640,596
事業活動支出の部		
人件費	28,054,561	67,599,191
教育研究経費	42,323,575	70,446,266
(内 医療経費)	24,327,852	24,327,852
管理経費	1,396,698	4,642,318
徴収不能額等	14,825	48,745
教育活動支出計	71,789,659	142,736,520
教育活動収支差額	594,630	5,904,076
教育活動外収支		
事業活動収入の部		
受取利息・配当金	356,621	3,167,991
その他の教育活動外収入	124,416	232,951
教育活動外収入計	481,037	3,400,942
事業活動支出の部		
借入金等利息	0	126,003
その他の教育活動外支出	0	0
教育活動外支出計	0	126,003
教育活動外収支差額	481,037	3,274,939
経常収支差額	1,075,668	9,179,016
特別収支		
事業活動収入の部		
資産売却差額	0	0
その他の特別収入	221,406	2,478,929
特別収入計	221,406	2,478,929
事業活動支出の部		
資産処分差額	207,523	726,138
その他の特別支出	1,397	14,621
特別支出計	208,920	740,759
特別収支差額	12,486	1,738,171
予備費		
基本金組入前当年度収支差額	1,088,154	10,917,187
基本金組入額合計	△2,629,958	△14,491,528
当年度収支差額	△1,541,804	△3,574,342
前年度繰越収支差額	△18,616,592	△136,537,980
翌年度繰越収支差額	0	△140,112,321
(参考)		
事業活動収入計	73,086,733	154,520,467
事業活動支出計	71,998,579	143,603,281

※千円単位で表示する際に千円未満を四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。
 ※新病院棟に関するご寄付は、慶應義塾全体の寄付金に含まれています。

構内図

(2016年10月現在)



受診者用施設

- 1 1号館
Building 1
A I期棟
B II期棟(建設中)
- 2 2号館
Building 2
・慶應義塾大学医学部三四会事務局(11階)
- 3 3号館(南棟)
Building 3(South Wing)
- 4 1号棟
Wing 1 Wards
- 5 2号棟
Wing 2 Wards
- 6 中央棟
Central Wing
- 7 旧リハビリテーション棟
Former Rehabilitation Building
- 8 レストラン
Restaurant
- 9 コーヒーショップ
Cafe

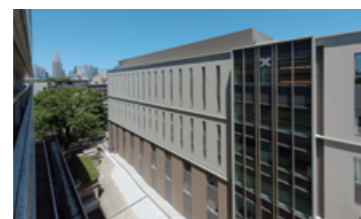
その他施設(医学部・研究関連等)

- 10 信濃町煉瓦館
Shinanomachi Rengakan
・慶應義塾大学関連病院会事務局
- 11 孝養舎
Koyosha
- 12 東校舎
East Lecture Hall
- 13 総合医科学研究棟
Institute of Integrated Medical Research
- 14 第2校舎
Second Lecture Hall
- 15 新教育研究棟
Education and Research Building
- 16 北別館
North Annex
- 17 生協購買部
University Co-op
- 18 3号館(北棟)
Building 3(North Wing)
- 19 臨床研究棟
Clinical Research Building
- 20 紅梅寮
Koubai-ryo (Dormitory)
- 21 北里記念医学図書館
Kitasato Memorial Medical Library
- 22 予防医学校舎
Building for Preventive Medicine & Public Health
- 23 仮設D棟
Temporary Building D

診療関連施設 外観



正面玄関
Main Entrance



1 1号館(I期棟)
Building 1



2 2号館
Building 2



3 3号館(南棟)
Building 3(South Wing)

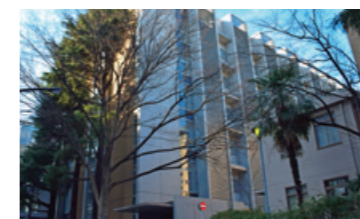


4 1号棟
Wing 1 Wards

その他施設 外観



13 総合医科学研究棟
Institute of Integrated Medical Research



18 3号館(北棟)
Building 3(North Wing)



19 臨床研究棟
Clinical Research Building



21 北里記念医学図書館
Kitasato Memorial Medical Library



22 予防医学校舎
Building for Preventive Medicine & Public Health

当院では、ご紹介くださる患者さんの待ち時間を短縮するため、予約制を導入しています。以下のお手続きにご協力をお願いいたします。



受付時間 午前9時00分～午後7時00分(平日、第2・4・5土曜日) ※土曜日は午後5時00分まで

①予約の申込

「予約センター」にお電話ください。
03-3353-1257

「申込フォーム」をご利用ください。
http://www.hosp.keio.ac.jp/iryosyokai.html
Webサイト「患者さんの紹介について」から初診外来予約フォームに必要事項を入力してください。

「予約申込書」「診療情報提供書(紹介状)」をFAXで送信ください。
03-5843-6167
「予約申込書」は当院Webサイト(左記URL)からダウンロードできます。

②予約内容を回答します。(予約時間は当院で指定させていただきます)

「予約票」「FAX送付状(紹介状返信用)」を送付いたします。
(15～20分程度かかります)

「予約票」をFAXで送付いたします。
(15～20分程度かかります)

午後7時00分以降に送信いただいた申込は翌日回答となります。
※土曜日は午後5時00分まで。休診前日の受付時間外申込への回答は翌診療日となります。

③診療情報提供書(紹介状)をFAXで送信ください。

03-5843-6167
(送付したFAX送付状をご利用ください)

④患者さんに「予約票」をお渡しください。

【患者さんがご予約当日お持ちいただくもの】
● 予約票 ● 保険証や医療証 ● 当院の診察券(お持ちの方) ● 画像(CD-Rやフィルム)、検査データ
● 送信いただいた診療情報提供書(紹介状)の原本(必ず事前に送信願います)

ご不明な点は「予約センター:03-3353-1257」までお問い合わせください。
■ 休診日: 日曜日 / 第1・3土曜日 / 国民の祝日・休日 / 年末年始(12月30日～1月4日) / 慶應義塾の休日(1月10日、4月23日)

慶應義塾大学病院に受診をご希望の患者さんは、以下の手順でご予約をお願いいたします。

1. 予約センターにお電話をお願いいたします。

予約センター: **03-3353-1257**
受付時間: **午前9時00分～午後4時00分**
(休診日を除く)
休診日: **日曜、祝日、第1・3土曜日、
年末年始(12月30日～1月4日)、
慶應義塾の休日(1月10日、4月23日)**

お電話でお伺いすること
● 他院からの紹介状(診療情報提供書)や検査結果・画像等をお持ちかどうか
● 診察を希望される「診療科」「医師」「日時」
● お名前、生年月日、当院の受診歴など
ご予約の日時をご相談して決定します。

2. 紹介状や保険証のコピーをお送りください。

送付先: 〒160-8582
**東京都新宿区信濃町35番地
慶應義塾大学病院
外来予約センター**

※個人情報につき「簡易書留」で送付をお願いします。
※予約日の2日前までに必着をお願いします。
※診察日まで期間が短い場合は、直接病院にお持ちいただくか当日ご持参ください。

3. 受診当日、以下のものをお持ちください。

- 予約票
- 保険証や医療証
- 当院診察券(お持ちの方)
- 画像(CD-Rやフィルム)、検査データ
- (お送りいただいた)診療情報提供書(紹介状原本)

【ご来院時間】
予約時にご確認いただいた時間にご来院ください。
【ご来院場所】
病院1F 初診案内カウンターにお越しください。

ご不明な点は「予約センター:03-3353-1257」までお問い合わせください。

予防医療センター 人間ドックのご案内

予防医療センターでは、「健康寿命の延伸」を目指して、人間ドック(自費診療)を実施しています。

予防医療センターの特徴

1. 質の高い検査を実施
 - 大学病院で経験を積んだスタッフによる精度の高い検査を行います。
2. 大学病院ならではの医療連携
 - 検査結果データはカルテに残り、必要に応じてその後の診察等に活かされます。
 - より専門的な検査が必要な場合、慶應義塾大学病院の診療科への紹介を行います。
3. 適切なフォローアップで健康維持をサポート
 - 受診結果に関するフォローアップは、コーディネーター(看護師)が窓口となり、必要な検査や診療科受診のサポートを行います。

お一人おひとりに最適な健診プログラムのご提案ができるよう、多彩なメニューをご用意しております。健診プログラムの内容、選び方など詳しい情報は、予防医療センターのWebサイトをご参照ください。なお、Webサイトがご覧いただけない際は、パンフレットをお送りいたします。お気軽にお電話でお問い合わせください。

URL: <http://cpm.hosp.keio.ac.jp/> (※Webでは24時間お申込みが可能です。)

お問い合わせ: **03-6910-3533** / 受付時間: 月曜日～金曜日、第2・4・5土曜日 午前8時30分～午後5時00分



予防医療センター Webサイトはこちらから

